

平成 28 年 3 月 15 日号 「森のひと言」

～ 地域間の競い合いと支え合い ～

今、NHK 大河ドラマ「真田丸」が人気です。私も毎週日曜の 20 時を楽しみにしています。「知恵」と「情報」で大勢力と互角に渡り合った、地方の小藩(真田藩)の闘いが多いの視聴者の共感を呼んでいるようです。「戦国版地域間の競い合い」です。

今、「地方創生」の掛け声のもと、地域間競争が進んでいます。「まちとしての魅力」に乏しい市町村は、人口の流出が加速し自治体機能が衰弱していくかもしれません。大げさかもしれませんが、まさに「現代版地域間の競い合い」です。かつての真田藩のように、「知恵」と「情報」を活用した積極的な取り組みが求められています。

一方、成熟した民主主義の現代では、「地域間の競い合い」だけではなく「地域間の支え合い」が芽生えています。5 年前の東日本大震災を契機に、関西広域連合内の自治体で生まれた「カウンターパート方式(特定の被災地に特定の支援自治体を割り当てる)」による復旧・復興支援の動きです。兵庫県は宮城県に、三田市は南三陸町に支援してきました。今は全国市長会の派遣要請により市は石巻市を支援しています。毎年「高い志」を持った市職員を派遣しており、この春も 2 人の職員を派遣する予定です。成熟社会では、「知恵と情報」を駆使した「地域間の競い合いと支え合い」が平和な国を豊かにしてくれます。



本市から派遣の職員が、石巻市の仮設住宅で作業している様子

平成 28 年 3 月 1 日号 「森のまちづくり談話」

～ 四つの改革 ～ 一つ目 『学びの改革』

『学びの改革』では、主に 3 つを進めていきます。

1 つ目は、「学びのまち三田」という新たな三田ブランドの創出です。三田は、個性あふれる幼稚園、小中学校、高等学校、大学、短期大学そして専門学術機関など多彩な教育環境に恵まれています。市内外の子育て世代から「子どもを育むには魅力的なまち」という評価を得るために、各教育機関の持ち味を生かした多様なシティセールスを積極的に推進します。

2 つ目は、「幸民未来塾」を開講します。さまざまな知識・技術を持った大人が子どもを育むことで、「三田で育った子どもは、郷土の偉人である川本幸民のように科学への関心が高くチャレンジ精神が旺盛だ」と言われるようなまちを公民協働で目指します。

3 つ目は、「地域の絆の大切さを学ぶしくみ」をつくることです。かつての日本には「隣近所」が支えあう地域社会が確立していました。しかし、超少子高齢社会が進むなか、日本が「真の成熟社会」になるためには、幼少期から地域の人間関係を大事にする「共生の心」を育む必要があります。これから、「小中学校の適正規模・適正配置」の議論が始まりますが、集団教育を通じて豊かな人間性を養い、心ふれあう地域社会を築くための「未来に責任を持つ成熟した議論」を期待しています。

平成 28 年 2 月 15 日号 「森のひと言」

～ 若者の政治参加 ～

1 月 31 日の市議会本会議場は、少し緊張した面持ちの高校生で議員席が埋まりました。三田市議会史始まって以来の画期的な出来事です。高校生議会では、23 人の高校生議員が事前に調査し、まとめあげた質問や意見を、私をはじめ市幹部に向けて、真摯な態度で発言してくれました。日常生活で感じていた市政に対する疑問や要望を率直に述べるだけでなく、多くの質問が構造的な課題にも言及しているのに驚きました。そして、それぞれの質問の中に「ふるさと三田」への熱い思いがあるのに感動さえ覚えました。

ただ残念なのは、時間の関係もあり再質問の機会を設けることができなかったことです。高校生議員の中には、私たち市幹部の答弁に納得できず、再質問したかった人もいたのではないのでしょうか。次回は機会を設けたいと思います。また、私の反省点は、答弁に少し言い訳が多かったのではないかとということです。

早ければ、半年後には国政に、秋には市政に有権者としてデビューする高校生議員には大いに期待しています。これからも「地方政治」を学んでもらう機会を設けていきますが、最もいい教材は議場での市長をはじめ市幹部と市議会議員との質疑・討論かもしれません。三田の若者に恥ずかしくない市政運営を心がけていかねばなりません。



高校生議会の様子

平成 28 年 2 月 1 日号 「森のまちづくり談話」

～ 四つの改革 ～

新しい年が始まって1カ月が過ぎました。昨年末にまとめた「三田市まち・ひと・しごと創生総合戦略(概案)」に加え、「平成28年度予算案」を今月開催される市議会に提案し、広く市民の皆さんにもお知らせします。よりよい総合戦略と予算になるよう幅広い議論を行ってまいります。

今後、市政を運営するにあたっては、次の「四つの改革」に視点を置き、着実に進めたいと考えています。**①学びの改革、②安全安心の改革、③地域を元気にする改革、④市役所の改革**です。市政の三大目標である「子どもに夢を」「高齢者に安心を」「地域に元気を」を実現し、三田を日本一住みたいまちにするためには、この四つの改革は不可欠です。

また、今年三田のまちづくりにとって、大きな分岐点の年になると考えています。第4次三田市総合計画や公共施設等総合管理計画、第4次三田市農業基本計画などの重要な計画の見直しや策定を行うからです。これらの見直しなどの際も、四つの改革を活かし、市議会や市民と「成熟した議論」を行うため「進取の精神と未来への責任感」を持ち、臨んでまいりたいと思っています。四つの改革の内容は、来月から毎月1日号で説明させていただきます。

平成 28 年 1 月 15 日号 「森のひと言」

～ 頑張っている市民への応援団 ～

市長に就任してから5カ月が過ぎようとしています。この間、毎日、5組程度の市民の方々と市長公室などで面談させていただきました。出来る限り、多くの方々とお会いしたいのですが、公務などでなかなか時間が取れないのが悩みです。面談の内容は、市への陳情は少なく、多くはさまざまな活動の報告や紹介を兼ねての表敬訪問です。これは、市民の成熟度の高さを示していると感じています。「頑張っておられる市民の方々（特にハンディキャップがある人たち）」との面談から、私は「勇気」をいただいています。

政治家の仕事の一つに、「頑張っている市民への応援団」としての役割があると聞いたことがあります。市長の仕事も同じだと思います。しかし、応援団でなければならない市長の私が、逆に励まされていることもあります。昨年11月の三田地区や12月の高平地区で開催した「地域元気ミーティング」では、元気に活動している市民の皆さんから地域を元気にする勇気をいただきました。いただいた勇気を大切にしながら、「頑張っておられる市民・地域への応援団」の一人として、しっかりと役割を果たしていきたいと考えています。



市民との面談の様子
(右から) 全国障害者スポーツ大会で活躍した猪熊勇之介さん、八十川一三さんと、森市長

平成 28 年 1 月 1 日号 進取の精神で三田のまちづくりを

あけましておめでとうございます。

今年が皆様にとりまして希望に満ちた輝かしい年となりますよう、心からご祈念申しあげます。

さて、今年「日本一住みたいまち三田」をめざして、「子どもに夢を 高齢者に安心を 地域に元気を」を目標に、(1)三田版総合戦略の策定 (2)28 年度予算の編成 (3)市役所の組織改革 を確実に実行し、「三田の新たなまちづくり」について、市議会の議員、市職員はもちろん、多くの市民の皆様と自由で活発な議論を積極的に進めていきたいと思っています。

かつて、三田の若者たちは、幕末から明治維新という、科学技術、教育、文化、政治に大いに輝いた時代に、海の向こうに夢を求めました。まさに「進取の精神」が三田藩にあふれた時代だったのではないのでしょうか。

昭和 50 年代、「北摂三田ニュータウン」の開発が進み、多くの人々が三田に新天地を求めて来られました。

そして今、人口伸び率日本一という「成長の時代」を過ぎ、三田は急激な高齢化と少子化、人口減という厳しい時代の変化に直面しています。かつての先人たちの活躍に学び、三田に「進取の精神にあふれたまち」としての輝きを取り戻さなければいけません。多世代にわたる「発想、知恵、経験、人脈」を大いに生かして、「三田の地方創生」を成し遂げようではありませんか。

2016 年を、市民の皆様と一緒に新たな三田のまちづくりのスタートの年にしてまいりたいと決意しています。

平成 27 年 12 月 15 日号 「森のひと言」

～ 市役所の扉 ～

市役所が新庁舎に移って、間もなく 1 年になります。毎日多くの市民が訪れ、今でも行政や議会の関係者がたくさん視察に来られます。誠に喜ばしいことです。

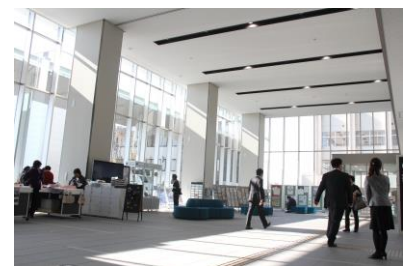
市庁舎の機能は、大きく分けて三つあるといわれています。第一に「市民への行政サービスや情報の提供」、第二に「市政の企画立案・議論」、第三に「防災などの危機管理時の司令塔」です。第三の機能は、東日本大震災以降、重視されています。

さらに、私は第四の機能として、「市民協働、市民交流」があると考えています。ただし、第一から第三の機能を妨げない範囲というのが前提です。

今後、第四の機能を発揮するため、今月実施の「世界にひとつのサンダツリー」や「謎解きツアー」に加え、来年 1 月から新たにロビーコンサートを開催します。引き続き、皆さんのアイデアをいただきながら、1 階ロビーを中心にさまざまな取り組みを企画実施していきたいと考えていますので、応援していただければと願っています。

「さあ、市役所の扉を開いてください。三田のまちのさわやかな風が通り抜けていく『風通し』のいい市役所があなたを待っています」

そんな市役所を目指していきます。



開放感のある 1 階ロビーの
吹き抜け

平成 27 年 12 月 1 日号 「森のまちづくり談話」

これからの三田のまちづくりを考えるうえで第三のキーワードは「個性」です。市の「個性」とは、一言で表すと「市のイメージ」です。イメージが良ければ、市民は「誇り」を持ち、市外からは三田市に「憧れや好感」を持つでしょう。しかし、三田のように「多様性」に富んだ地域にとって、統一したイメージで市を表現することはなかなか難しいものです。

現在検討を進めている「三田版総合戦略」の大きな課題の一つに、市外の子育て世代に三田へ居住してもらうにはどのような働きかけをしていくかということがあります。市内には全国有数の大学、短大をはじめ、特色ある高校、中学校、小学校や、県立人と自然の博物館などの優れた社会教育施設があり、三田市は教育資源に恵まれたまちと言えます。

これらの「学校などの教育力」に、市内に住む元気な高齢者の知恵と経験を活用して「地域の教育力」を充実していけば、まさに「子どもの夢を育むまち」として市外の多くの子育て世代にも強くアピールできるのではないのでしょうか。さらには、高齢者と子どもとの関わりを通じて、「高齢者の生きがいを育むまち」、そして、教育・人づくりを通じて「地域の元気を育むまち」という新たな三田のイメージも創り出せるのではないのでしょうか。



若者が集う大学のキャンパス
(カルチャータウン)

平成 27 年 11 月 15 日号 「森のひと言」

三田で生まれ育ち、働き、新しい家族を持ち、家族や地域とともに生活し、生涯を終えることはとても幸福なことです。そのためには、子どものころからふるさと意識を育み、より永く住み続けてもらうことが最も大事です。また、勉学や仕事のため、市外に転出した人たちに「ふるさと三田」に戻って来てもらう施策を考えることも重要です。

先日、私の生まれ育った大阪府羽曳野市の中学校の同窓生から電話がありました。いろいろな思い出話の後、「森君はついに羽曳野に帰って来てくれなかったね」と言われたのが心に残りました。永く住み続けてきた三田は私の「ふるさと」ですが、羽曳野も神戸もそして、東京も私の「心のふるさと」です。

近年のグローバル化により私たちの生活圏は広がり、いくつもの「心のふるさと」を持つようになりました。そのような人たちを、心優しく受け入れるという雰囲気が地域コミュニティで高まると、三田が「日本一住みたいまち」により一層近づくのではないのでしょうか。

今月は、私にとって新しい出発の季節となりました。長男が札幌に転勤となり、次男が東京で結婚します。少しばかり寂しくなりますが、いつか三田に戻ってくれたらと少しばかり期待もしています。



ふるさと三田「天空の街」
〔有馬富士山頂から撮影〕
(神戸新聞社提供)

平成 27 年 11 月 1 日号 「森のまちづくり談話」

これからの三田のまちづくりを考えるうえで第二のキーワードは「多様」です。「多様」は三田の持つ特性でもあります。三田は、三田駅周辺の「既成市街地域」、「農山村地域」、「ニュータウン地域」の三つに区分されると言われています。

三つの地域では、長い年月を経て「地域の風景」や祭りなどの「地域の歴史文化」そして「地域の人間関係」など地域ごとの色合いを創り上げてきました。

一つの市町村がさまざまな地域の色合いを持つことは、成熟社会における「豊かなまち」であると思います。三田は、大都市に近い住宅地でありながら、休日には家族連れで、昔の面影を残しながらも賑わいのある駅前通りを散策したり、日本のふるさとの面影を残



多様な三田の風景

す農山村で新鮮な農産物に親しむことができるなど、豊かなライフスタイルを楽しめる可能性を秘めたまちではないでしょうか。まさに「兵庫の縮図あるいは日本の縮図」とも言えるモデル都市になることも夢ではありません。

これから地域の特色を生かした「豊かなまち」になるためには、地域の多様性を認め合う「寛容さ」と他の地域の人を受け入れる「開放性」が、市民一人ひとりに求められています。

平成 27 年 10 月 15 日号 「森のひと言」

市長に就任してから、多くの方々と挨拶を交わすことが多くなりました。普段、何気なく交わす挨拶ですが、時として、人間関係を大きく変えることがあります。「たかが挨拶、されど挨拶」です。私も、これまで「挨拶」で苦い経験や感動的な経験を数多くしてきました。

その一つに、三年前の思い出があります。当時、加古川の高齢者大学に着任したばかりでした。一人の学生が私の執務室に来られ「理事長、職員は優秀で勤勉な方々ばかりなのに、なぜ職員同士や私たち学生に挨拶を交わされないのですか？」と言われました。その当時、職員間のコミュニケーションは決していいものではありませんでした。大学採用の職員、県からの出向職員、県の元幹部職員そして元県立高校の校長など、複雑な人間関係がありました。

その学生の言葉で改めて気づきました。私も含めて職員の挨拶が極めて少ないことに。次の日から「あかるく、いつも、さきに、つづけて」をモットーに、あいさつ運動を職員にお願いしました。あれから三年経ちましたが、在職中、厳しい財政状況の中で、大学改革を進めてきた原点が「あいさつ運動」であったのではないかと考えています。「風通しのいい市役所、風通しのいい市政」も同じではないかと考えています。



高齢者が小学生の登下校を見守りながら、あいさつをしている様子（三田地区）

平成 27 年 10 月 1 日号 「森のまちづくり談話」

これからの三田のまちづくりを考える上での第一のキーワードは「成熟」ですが、そもそも「成熟」とは、広辞苑では「一 穀物や果物が十分に実ること、人間の体や心が十分に生育すること。二 物事が最も充実した時期に達すること。」という二つの意味が示されています。まちにも「十分に実る、生育すること」や「充実の時」があるのではないのでしょうか。まちづくりは、その時の住民にとって住みやすいまちであることも大事ですが、子どもや孫はもちろん、長く次の世代に評価されることも重要だと思えます。

ヨーロッパの歴史ある街並みが、世界中の多くの人から愛されるのは、長い年月を経て「成熟したまち」になっているからではないのでしょうか。「成熟したまち」にはまちづくりをはじめた人たちの識見が感じられるとともに、それぞれの時代に応じて創り上げられてきた「まちの品格」が、まちの建物から感じとれます。これから、三田駅前や新三田駅前、相野駅前そしてニュータウンの再興と、三田の「新しいまちづくり」が続きます。当面の利害に惑わされることなく、一人ひとりの住民が「公」の志を持って、後世に誇れるまちづくりを進めていただきたいと思います。



歴史ある街並み（三田町）

平成 27 年 9 月 15 日号 「森のひと言」

9 月は、市内の各地で敬老会が開かれ、私も各地の敬老会にお招きいただき、元気な高齢者の笑顔を拝見し、元気をいただいています。

昔の話ですが、兵庫県の東京事務所で仕事をしていた平成 20 年の春、聖路加国際病院に名誉院長の日野原重明先生（現在 103 歳）をお訪ねした時に、「先生のように長寿で元気で活躍されておられる秘訣を教えてください」とお願いしたところ、先生からその秘訣を三つ教えていただきました。一つは、30 歳代の胴囲を保つよう食生活に気をつけること、二つ目に軽度な運動を続けること、そして何より大事なのは生涯を通じて生きがいを持つことと教えていただきました。

その当時でも現役の内科医として、また年間百回を超える全国各地の講演や、執筆活動に活躍されておられた先生のお言葉に改めて感銘を受けました。

生きがいを持って心豊かに日々過ごされておられる元気な高齢者のお姿が、ご家族をもちろん若者をはじめとする多くの地域の人々に「元気」を与えていただいていることに深く感謝するとともに、いつまでもお元気で過ごしていただくことを切に願っています。



高齢者が中学生に数学を教えている様子（弥生てらこや）

平成 27 年 9 月 1 日号 「森のまちづくり談話」

この 8 月 8 日に三田市長に就任しました森哲男でございます。三田のこれからの新しいまちづくりに対する市民の大きな期待にしっかりと応えていきたいと思っています。

そして、毎月 1 日号の「伸びゆく三田」に掲載する市長の「ほっとトーク」では、「森のまちづくり談話」と題して、市民の皆さんにこれからの三田のまちづくりを進めるにあたってのポイントとなることをお伝えしていきます。

さて、これからの三田のまちづくりを考えるうえで、私は、次の三つがキーワードになると考えています。一つ目が「成熟」です。二つ目が「多様」です。そして三つ目が「個性」です。

まず、最初のキーワードである「成熟」ですが、これは、三田のこれからのまちづくりの時代背景を考えるポイントです。二番目のキーワードである「多様」は三田の持つ特性（ある意味で長所）のことです。三番目のキーワードは「個性」（ある意味で存在感）です。

これから、それぞれのキーワードを通して、三田のまちづくりを一緒に考えていきましょう。

平成 27 年 8 月 15 日号

日本一住みたいまちを目指して ～就任あいさつ～ 三田市長 森哲男

この度の三田市長選挙におきまして、多くの市民の皆さまからのご支援により、第 7 代目の市長として就任いたしました。

心から感謝申し上げますとともに、歴史と伝統のある三田市の将来を任された職責の重さに身の引き締まる思いです。

さて、三田市は豊かな自然に育まれた潤いのある素晴らしいまちであり、生活するには恵まれた環境にあると感じています。さらに、この三田に「賑わい」が加われば「魅力溢れる成熟都市」として、大いに未来が拓けてくるものと確信しています。

そのためには、これまでの「子育てするならゼッタイ三田」を継承・発展させることはもとより、新たに「子どもに夢を 高齢者に安心を 地域に元気を」の 3 つの方針のもと、「三田未来塾の創設」などプロジェクト 5 として掲げた 5 つの施策を中心に事業を展開するとともに、「地方創生」についても重点テーマと位置づけて推進することが何よりも肝要であると考えています。

また、私がこれまで培ってきた経験やネットワークを積極的に活かすとともに、市民の皆さま並びに議員の皆さま、そして職員と心をひとつにしてまちづくりを進め、三田市が「日本一住みたいまち」として評価いただけるよう全力で取り組んでまいります。

市民の皆さまの一層のご理解とご協力を賜りますよう心からお願い申し上げます。